

事例 17 鳥取の IT 企業が技術力を活かし 地方創生プロジェクトに挑む

企業情報

社名：株式会社アクシス
本社所在地：鳥取県
従業員数：102名



採用したプロフェッショナル人材

梶岡 大晃氏

年齢：26歳 家族構成：独身

前職：大手 IT 企業のシステムエンジニア

プロフィール

2012年 岡山県の高専を卒業後、2年過程の専攻科を修了。
2012年 大阪の大手 IT 企業に入社。業務系システム開発に携わる。
2016年 同社を退社。地元・岡山に戻り転職活動を始め、2016年9月にアクシスに入社。

拠点からの助言等

- 本事業の説明で同社を訪問した事がきっかけで、社長と直接面談し、求める人材像を整理。
- 新規プロジェクト「IT×林業プロジェクト」の内容について、詳しくヒアリング。地域活性化や地域貢献の経験、どの程度の IT スキルが必要なのか等を明確化。

企業担当者の声

地方創生事業を担う人材には 熱意やモチベーションが不可欠

IT 事業のノウハウを活かし 地域活性化に取り組む

弊社は主に、企業の顧客管理や売上管理など、業務に関わるシステム開発を行っています。またチャレンジ事業という位置づけで、太陽光発電を遠隔監視する太陽光発電監視計測システムも開発。4年前に事業化して以来、順調に売上を伸ばし、弊社の主力事業へと成長させました。その一方、鳥取県を拠点に活動している我々は、「地域を活性化させなければいけない」、「雇用も確保していかなければいけない」という問題意識を常に持っています。そこで現在力を入れ始めているのが、農林業や教育などの分野に IT 事業のノウハウを活かし、地域を活性化させる

採用前 プロ人材を採用したきっかけ

新たに地方創生事業をスタート 「技術×熱意」のある若い人材を求めた

●業務系のシステムや太陽光発電監視計測システムを開発する同社では、2016年から農林業や教育などの分野に IT 事業のノウハウを活用して、地域を活性化させる地方創生事業をスタートさせた。それに伴い、IT の知識やスキルを持ち、同時に地方創生事業にも興味のある人材を採用することとなった。

採用後 プロ人材採用により得られた効果

どんなプロ人材を採用？

●大手 IT 企業で4年間システムエンジニアとして活躍。一方で、地方創生にも強い関心を持ち、培ってきた知識やスキルを地域活性化に活かしたいと考えていた。

プロ人材の活躍状況

●地方創生事業担当者として、「IT×林業プロジェクト」や「IT×教育プロジェクト」など新規事業の企画から運営に至るまで一連の業務を担っている。また持ち前のコミュニケーション能力を発揮し、地域との橋渡し役としても活躍。

代表取締役 兼 グループ CEO 坂本 哲氏



地方創生事業です。

例えば「IT×林業プロジェクト」では、地域の強みでもある恵まれた森林資源を活かし切れていない林業に、IT を導入。地元の森林組合等と連携し、ドローンを使った森林管理や、IT を活用した木材の流通・生産・在庫管理など、さまざまな取り組みを進めています。また教育の分野では、統合となる小学校の校舎を使い、地域の小学生を対象とした最先端のプログラミング教室を開校。鳥取県から一人でも多くの IT 技術者を育成することが目標です。さらにこの場所では、首都圏の企業のサテライトオフィスを開設したり、イノベーター人材を誘致するなど、人が集まる仕組みも作っています。

IT の知識やスキルを持ち 地方創生にも興味のある人材

地方創生事業は2016年のキックオフ以来、社長である私が中心となって進めてきましたが、もちろん私一人では細かいところまで手が回りません。そこでこの事業の専任として、一緒に地域を盛り上げてくれる人材を募りました。我々が求めたのは、まずは IT のスキルや知識がベースにあること。そのうえで、地方活性化に興味があり、人一倍の熱意やモチベーションを持っていること。しかし、技術者でありながら、フットワークが軽く、外に出て人と交渉できるような人材は、なかなか見つかりません。

そうした中、鳥取県のプロフェッショナル人材戦略拠点に相談したところ、人材紹介会社主催の地元ゲストハウスで開かれる交流会への参加を提案されました。その交流会とは、地方創生に興味のある人たちが一同に集まり、語り合うというもの。ビジョンを共有できる人材と出会えるかもしれないとのことでした。そこで私も参加することになり、多くの若者と語り合う中、出会ったのが、今回ご紹介する梶岡です。大手 IT 企業でエンジニアとしてキャリアを積んできたため、IT に関する知識やノウハウは豊富。そ

のうえ地方を元気にしたいという熱意にあふれ、地域に飛び込んでいけるバイタリティやコミュニケーション能力も持ってあり、まさに我々が求める理想的な人材でした。すぐに意気投合し、後日あらためて連絡。弊社の新たなスタッフとして働いてもらうことになりました。

地方でもチャレンジすれば チャンスはたくさんある

梶岡は現在、地方創生事業担当として、地域と連携を図りながら、新規事業の企画から立ち上げ、運営に至るまで一連の業務を担っています。まだまだ勉強不足な面はありますが、前向きな性格と持ち味の粘り強さを発揮し、一步一步前進中です。今はまだ私も多くの部分で関わっていますが、今後は梶岡ら若い世代が中心となって、事業を牽引していくことを期待しています。彼らの若い感性で、田舎や地方がどう変わっていくのか、とても楽しみです。私自身、1ターンで鳥取に移住してきたのですが、どんどんチャレンジすれば、地方でも会社は伸びていくと実感しています。都会が人材不足に陥っている今こそ、地方にとっては大きなチャンス。今後も地域の方々と連携して、みんなで鳥取県を盛り上げていきたいです。

プロ人材の声

IT のスキルや経験を活かしながら 地域の活性化に貢献したい



社長室 地方創生事業担当 梶岡 大晃氏

——御社に入社するまでの経歴を教えてください。

地元・岡山県の高専を卒業後、2年過程の専攻科を修了。大阪の大手 IT 企業に就職しました。その後、業務系のシステム開発を行う同社で4年間、システムエンジニアとして活躍。主に生産管理のパッケージを保守する作業に従事しました。

——転職の動機は何ですか？

IT の仕事は好きでしたが、1日中パソコンに向かってることに慣れず、性格的にももっと外に出て、人と接するような仕事が向いていると感じていました。一方で、岡山県の田舎育ちの私は、故郷が年々寂れていく様を見るにつれ、寂しい思いを抱くと同時に、地方創生に携わりたいという思いを強くしていました。そこで思い切って会社を辞めて、岡山県に戻ったところ、たまたま隣接県の鳥取のゲストハウスにて地方創生に興味のある人たちが集まる人材紹介会社主催の交流会が開かれることを知り、参加。そこで坂本社長と運命的な出会いを果たしました。いろいろとお話させていただく中で、「地域を元気にしたい」という社長のビジョンに共感。事業内容はもちろん、社長の熱い人柄に惹かれ、この人の下で働きたいと思いました。IT のスキルや経験を活かしつつ、地域の人たちと接しながら、地方創生に貢献する——これぞまさに自分が探していた仕事。迷うことなく転職を決断しました。

——入社後はどのような仕事を担当されていますか？

2016年9月に入社し、以降、地方創生事業担当として、新規事業の企画から立ち上げ、実行まですべてに関わっています。例えば、統合予定の小学校では、地域の小学生を対象としたプログラミング教室を開催。社員講師のサポートのもと、オリジナルゲームを作るなど、時代の先駆けとなるプログラミング教育事業を進めています。エンジニア時代にはお客様の顔が見えませんでした。この仕事はお客様の喜ぶ顔がダイレクトに伝わります。地域の皆さんと一緒にものを作り、コミュニケーションを図ることが、私にとって何よりのやりがいです。

——今後の課題や目標は何ですか？

覚えることは山ほどありますが、一番の課題は地域を活性化させながら、会社の成長や売上にも貢献していくことでしょう。おかげさまで毎日色々な経験を積みさせていただき、プロジェクトを1つ1つクリアする中で、新たなスキルが身についている実感があります。将来的には自分一人で企画を1から10まで進め、実現させることが目標です。そしてこの魅力ある鳥取をもっと元気に。熱いメンバーたちと一緒に盛り上げていきたいと思っています。